

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|--|---------------|-------|------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)乙第 35 号 | 氏名 | 平木宏一 |
| 学位審査委員 | 主査 | 江石 清行 | |
| | 副査 | 弦本 敏行 | |
| | 副査 | 工藤 崇 | |
| 論文審査の結果の要旨 | | | |
| <p>1 研究目的の評価 本研究は、胎盤ポリープに対する子宮温存術式の効果を評価しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> | | | |
| <p>2 研究手法に関する評価 胎盤ポリープの診断で、待機後にポリープ摘出術を施行した 8 例を対象とし、症状・先行妊娠・臨床背景・超音波カラードプラー法・MRI 評価・血清 hCG 値・手術時期・手術成績について検討したもので、研究手法も妥当である。</p> | | | |
| <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、胎盤ポリープの診断及び血流量の評価には、超音波カラードプラー法が有用であり、子宮鏡下手術は手術時期を遅らせることにより術中出血量を減少させ、子宮温存に有用であることを明らかにし、今後の胎盤ポリープ研究への進展が大いに期待される。</p> | | | |
| <p>以上のように本論文は胎盤ポリープの治療法の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p> | | | |